



装の技術も開発した。産業機械などの筐体と同塗装を施すだけで、温度変化が目視できるようになる。高温になると色が変化する特殊塗料は、一般的にも市販されているが、それを防錆性などに優れた工業用塗装にする技術はなかったという。今回製作したサンプル品は、22度から45度になると黒から白に変化する。今後は同じく用途開拓を図っていく。




1月に取材した

注目の

独創技術

・製品

157や...
社長
よ
B
朝
SD
て、企
いく。



「プラスチック資源循環フェア」に出展

プラの工場内リサイクル実現

日本油機(相模原市中央区東淵野辺、☎042・757・6681)が製造販売する「ターバンピ」が海外で注目されている。同装置はプラスチック成形で発生する再生ペレット)にできるものだ。材料コストが抑えられるだけでなく、環境問題。中国や東南アジアで導入企業が増加。毎月4台以上のペースで新規受注が舞。ビッグサイトで開催される「第1回プラスチック資源循環フェア」でもパネル

同装置でリサイクルした再生ペレットは、劣化しないよう低温でバージンペレットと同等の性能という。一般的に、プラスチック成形では余剰材(スプル・ランナ)が必ず発生する。従来は再利用されずに破棄されていたが、同装置では100%リサイクルを実現する。

まず余剰材を破砕して同装置に投入。その後、装置のスクリーシリンダーで、材料として

状態に押し出し水槽内で再生ペレットにする。原料としてそのままでも任意で調整可能だ。現在、処理量に応じて、これもコンパクトな間で30キロが製造で

熟練技術が不要に

冷却水の流量を自動制御

リガルジョイント(相模原市南区大野台、042・756・7567)は、冷却水や切削水の供給量が自動制御できる装置「ワールドマニホールドキーパー (WMK)」を製品化した。半導体やFPD (フラットパネルディスプレイ)、プラスチックの射出成形などの生産工程で使用する。

熱を持った装置や金型を冷却する際、従来は投入する冷却水の流量を手動で調整していたが、それには熟練の技能が必要だった。その点、同製品は、装置から離れたところでも流量を設定できるほか、自動制御もできる。目標流量と実際の流量の差を常に監視しており、フィードバック制御も実施する。最大10系統の同時制御が可能だ。

また、半導体やプラスチック業界だけでなく、金属加工の分野にも使える。同装置を水道配管に取り付けば、切削水を供給するためのタンクに対しても、一定流量で水を自動供給し続ける。制御可能な流量範囲は毎分1リットルから30リットルまで。価格は1系統で6万円前後を予定する。

リガルジョイント



産業
Nqvi
相模
企業

環境
Nqvi
相模
企業

海外

前回は遊いてお話しです。「回収が難しいことをお伝えて諦めてはなら「契約書の中で自社しておくことがあです。「契約でしっかりとめておくか、かで、売掛滞った場合、済できるか、過言ではあそのため、専門家に契